
ガイア

玄竜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ガイア

【Zコード】

Z3610D

【作者名】

玄竜

【あらすじ】

ガイアとは一体何物なのか!?私は密林のジャングルで恐ろしい出来事に出会った。3年前の出来事について覚えていふことを出来る限り語ろうと思つ。しかし果たして上手く語り尽くせるかどうかは自信がない。

第一話　序章

「」は南アフリカの密林のジャングル。私はロシアのマフィアの一員だったが、3年前のある事件がきっかけでこの地に逃げ込むこととなつた。

3年前、それは私がまだ『ギース』と呼ばれるロシアの裏の世界を牛耳つっている組織の一員となつて間もない頃である。

その頃の私の仕事といえば麻薬の密輸であった。所謂「運び屋」というやつだ。だいたいが、上からの指示で麻薬をロシアからヨーロッパ、アメリカ、アフリカへと輸送する。

その日も、アフリカへ向けて麻薬輸送用のヘリに乗つていた。

ヘリには私の他に「ケリー」と名乗る操縦士と、「ガイア」と名乗る男が乗つていた。

ケリーはニコアニアーク出身の中年男性で、以前は軍隊に所属していて、ヘリ操縦の訓練を受けていたらしい。

ガイアについてはロシア出身ということしか分かっていない。歳は30近くに見える。

この一人についての情報はこれ位しかなく、それ以外についてはよく分からぬ。何故『ギース』に所属するようになったのかも教えてはくれない。

因みに私について少し紹介しておこう。私は口シアの某都市出身で、歳は当時24才。小さい頃から盜みや喧嘩を繰り返していた。高校卒業後もろくに仕事に就かず、ふらふらしていたが、遊び仲間の紹介で『ギース』に所属することになった。

ヘリがアフリカの某都市上空に近付いた頃、ガイアが妙なこと言った。

「ここは危険だ。これ以上は行かない方が良い。さもないと大変なことになる。」

第一話 疑念

「ガイア、どうした？ 大変なことって、一体何が起こるって言つんだ？」

「ん…いや、何でもない。気にしないでくれ。」

「そうか…」

その時の私にはこれから起る出来事など知るよしもなかった。

ヘリはアフリカの某都市に着いた。我々3人は車に乗り換えて『ルージュ』という飲み屋に行つた。そこで麻薬の受け渡しを行うことになつていたからだ。

飲み屋では「ギルバート」という男が待つていた。目が合つと奴は私に話しかけてきた。

「よう、ドリー。待つてたぜ。遅かつたじゃねえか。ブツは持つて来たのか？」

「嗚呼、このバッグの中に入つている。」

「そうか、じゃあ貰つていくぜ。金はこのバッグに入つている。」

ギルバートはおもむろにバッグを私に向けて差し出した。

「よし、じゃあ中身を確かめさせてもらひや。」

ギャング映画でよくあるシーンである。私はギルバートから差し出されたバッグを確かめようとした。

「ちょっと待て。」

「ん、どうかしたのか？」

「その…後ろの奴は何ものなんだ？」

ギルバートは私の後ろにいたガイアを見て聞いてきた。

「あれが、ロシア出身の『ギース』の一員で、名前はガイアって言うんだ。

あいつがどうかしたのか？」

「いや、何でもない。ちょっと気になつただけだ。気にするな。」

「やうか、よし、確かに金は要求通りあるよつだな。」

私はこの時、ギルバートといい、ガイアといい、妙な違和感を感じていた。

「それじゃあな。」

我々3人はギルバートから受け取ったバッグを持って飲み屋を出ようとした。

「お前ら、今日はどうするんだ？」

「今日は3人で近くのホテルに泊まるつもりだが。」

「そうか、…、今日は気をつけた方が良いと思つべ。」

「ん、何があるのか？」

「今日は…、『ガイア』と呼ばれるこの地に古くから伝わる守り神を奉納する為の祭があるんだがな。その祭つてのがくせ者でな、何でも祭の夜になると死者が生き返るつていうんだ。まあ、多分迷信だとは思つんだが…。」

「ん? ガイアだつて? 僕の後ろの奴もガイアって言つんだぜ。何か嫌な予感がするな。」

その時俺は背中に感じる寒気で体中の震えを抑え切れずにいた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3610d/>

ガイア

2010年11月2日14時56分発行